Sun Server X4-8 Oracle® VM インストールガイド

Part No: E55374-01
2014 年 6 月

Copyright © 2014, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用法 5

Oracle VM ソフトウェアのインストールについて 9
Oracle VM インストールタスク表 9
Oracle VM の概要 10
サポートされているソフトウェアバージョンと更新 10
関連項目 11
Oracle VM のインストールオプション 11
単一サーバーへのインストール方法 11
Oracle System Assistant 12
Oracle System Assistant の概要 12
Oracle System Assistant の OS のインストールタスク 13
Oracle System Assistant の取得 13

Oracle VM Server のインストールの準備 15
インストール環境の準備 15
▼ ローカルコンソールのセットアップ 15
▼ リモートコンソールのセットアップ (PXE インストール) 16
仮想ディスクの作成 17
▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード 17
▼ BIOS ブートモードの設定 18

Oracle VM Server のインストール 21
▼ Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant) 21
Oracle VM Server のインストール (手動) 25
▼ Oracle VM Server をインストールする (ローカルメディアまたはリモートメディア) 25
Oracle VM Server のインストール (PXE Server) 27
Oracle VM インストールの完了 29
大容量メモリーシステムの dom0_mem の増加 29
▼ Oracle Hardware Management Pack へのアクセス 30
▼ 個々の Oracle VM ドライバをインストールする 31
Oracle VM リソースの作成と管理 32

索引 33

このドキュメントの使用法

このセクションでは、Oracle の Sun Server X4-8 用の最新のファームウェア、ソフトウェア、およびドキュメントの入手方法を説明します。フィードバック用のリンクおよびドキュメントの変更履歴も記載されています。

- 5 ページの「Sun Server X4-8 モデル命名規則」
- 5 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」
- 6 ページの「Oracle サポートへのアクセス」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Server X4-8 モデル命名規則

Sun Server X4-8 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 4 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字 8 は、プロセッサの数を意味します。

最新のファームウェアとソフトウェアの入手

Oracle x86 サーバー、サーバー (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバ

が含まれており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブ上にあります。

- My Oracle Support – https://support.oracle.com
- 物理メディアのリクエスト – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info または聴覚に障害をお持ちの場合は http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X4-8	http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。『*プロダクトノート*』にリストされている、サポートされている Oracle ILOM のバージョンのドキュメントを参照してください。	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack。『*プロダクトノート*』にリストされている、サポートされている Oracle HMP のバージョンのドキュメントを参照してください。	www.oracle.com/goto/ohmp/docs

このドキュメントについてのフィードバックは http://www.oracle.com/goto/docfeedback からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセット内の情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: https://support.oracle.com
- トレーニング: http://education.oracle.com

寄稿者

主な執筆者: Ray Angelo、Michael Bechler、Cynthia Chin-Lee、Lisa Kuder、Mark McGothigan、Ralph Woodley。

寄稿者: William Schweickert、Anthony Villamor、Mick Tabor、Richard Masoner、Tamra Smith-Wasel、Denise Silverman。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2014 年 4 月。初版。
- 2014 年 6 月。製品リリースのための変更。

Oracle VM ソフトウェアのインストールについて

このセクションでは、Oracle VM ソフトウェアとインストールオプションについて説明します。

説明	リンク
Oracle VM インストールタスクの概要を把握します。	9 ページの「Oracle VM インストールタスク表」
Oracle VM ソフトウェアについて説明します。	10 ページの「Oracle VM の概要」
使用するインストール方法を決定します。	11 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
Oracle System Assistant について説明します。	12 ページの「Oracle System Assistant」

Oracle VM インストールタスク表

次の表に、Oracle VM ソフトウェアをインストールするための大まかな手順を示します。

手順	説明	リンク
1	Oracle VM サーバーについて**学習**します。	10 ページの「Oracle VM の概要」
2	Oracle VM サーバーの**インストールオプション**について学習します。	11 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
3	Oracle VM サーバーをインストールするためにサーバーを**準備**します。	「Oracle VM Server のインストールの準備」
4	使用可能ないずれかのオプションを使用して Oracle VM ソフトウェアを**インストール**します。	「Oracle VM Server のインストール 」
5	Oracle VM ソフトウェアの**更新**と Oracle VM サービスの管理をします。	29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM の概要

Oracle VM は、仮想マシン (VM) を作成して管理できる仮想化環境プラットフォームです。これらの仮想マシンは同じ物理サーバーに存在しますが、独立した物理サーバーのように動作します。Oracle VM で作成された各仮想マシンは、それぞれ専用の仮想 CPU、オペレーティングシステム、ネットワークインタフェース、およびストレージを備えています。

Oracle VM には次のコンポーネントが含まれています。

- **Oracle VM Server:** 仮想マシンと Oracle VM エージェントの実行に使用する Xen ハイパーバイザをベースとした、軽量のセキュアな仮想化環境。
- **Oracle VM Agent:** Oracle VM Server 上にインストールされ、Oracle VM Manager と通信し、Oracle VM Server、サーバープール、およびリソースを管理するための Web サービス API が含まれています。
- **Oracle VM Manager:** 仮想マシンを作成して管理するためのユーザーインタフェースの役割を果たす Web アプリケーション。これには、仮想マシンの作成 (テンプレートを含む)、ライフサイクル管理 (配備、移行、および削除)、およびリソース管理 (`.ISO` ファイル、テンプレート、および共有ストレージリソース) が含まれます。

  このドキュメントには、Oracle VM Manager をインストールする手順は含まれていません。Oracle VM Manager に関する詳細は、次を参照してください。

  http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

サポートされているソフトウェアバージョンと更新

説明	バージョン
初期リリース時のサポートバージョン	3.2.7
追加のサポートバージョン	新しいバージョンのソフトウェアが追加されると、詳細は https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-8#tab:Operating-Systems で公開されます

注記 - Oracle VM のインストール済みバージョンを購入した場合は、『Sun Server X4-8 設置ガイド 』に示された手順に従ってインストール済みソフトウェアを構成してください。

サーバーに関する最新情報は、『Sun Server X4-8 プロダクトノート 』で保持されています。プロダクトノートドキュメントには、サーバーのハードウェアまたはソフトウェアの問題に関

する詳細情報が記載されています。このドキュメントの最新バージョン、その他のサーバー固有のドキュメント、および関連ドキュメントは、http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs にあるサーバードキュメントライブラリでオンラインで入手できます

関連項目

- 11 ページの「Oracle VM のインストールオプション」
- 「Oracle VM Server のインストール 」

Oracle VM のインストールオプション

Oracle VM ソフトウェアを単一のサーバーにインストールすることも、複数のサーバーにインストールすることもできます。このドキュメントのスコープは、単一サーバーへのソフトウェアのインストールです。

注記 - 複数のサーバーへのソフトウェアのインストールには、Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用できます。Oracle Enterprise Manager Ops Center の使用方法については、http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html を参照してください

単一サーバーへのインストール方法

次の表に、単一サーバーに使用できるインストール方法を示します。各インストール方法の手順は、「Oracle VM Server のインストール 」に記載されています。

メディアの配布方法	説明	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール	Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Oracle VM 配布メディア。詳細は、12 ページの「Oracle System Assistant」を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール	Oracle System Assistant を使用します。	リモートクライアントから OSA を起動するための Oracle ILOM に対するネットワークアクセス、Oracle VM 配布メディア (リモートクライアントからアクセス可能な DVD または ISO イメージ)。詳細は、12 ページの「Oracle System Assistant」を参照してください。

メディアの配布方法	説明	その他の要件
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用	サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Oracle VM 配布メディア。
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージの使用	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステムで、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、Oracle VM 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。
PXE イメージ	PXE サーバーにインストールされた OS イメージを使用します。	OS イメージがインストールされた PXE サーバー。

関連項目

- 10 ページの「Oracle VM の概要」
- 「Oracle VM Server のインストール 」

Oracle System Assistant

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の概要

Oracle System Assistant は、起動および保守アプリケーションで、Oracle VM ソフトウェアをインストールするために使用できます。Oracle System Assistant を使用すると、Oracle VM ソフトウェアおよびその他のオペレーティングシステムをインストールするだけでなく、サーバーをセットアップおよび更新できます。Oracle System Assistant には、次のものも含まれます。

- Oracle Hardware Management Pack
- Oracle Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

関連項目

- 13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクを使用して、Oracle VM をインストールします。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant の手順に従ってインストールプロセスを実行できます。サーバーのハードウェア構成に基づいて、適切なドライバも取得してくれます。

Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、およびホストバスアダプタ) を更新できます。

Oracle System Assistant にはローカルでもリモートでもアクセスできます。サーバーのインストールが終了した直後の場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーの側にいながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連項目

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant は、工場出荷時にインストールされるオプションです。サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかを確認する方法については、http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs にある『*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド*』を参照してください。

関連項目

- 12 ページの「Oracle System Assistant の概要」
- 13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」

Oracle VM Server のインストールの準備

注記 - サーバーに Oracle VM が事前インストールされており、そのインストール済みバージョンを使用する場合の構成手順については、『Sun Server X4-8 設置ガイド 』を参照してください。

これらのトピックでは、Oracle VM サーバーをインストールするためのサーバーの準備に必要なタスクについて説明します。

説明	リンク
ローカル、リモート、PXE インストールのための環境を準備します。	15 ページの「インストール環境の準備」
(オプション) 仮想ディスクを作成します。	17 ページの「仮想ディスクの作成」
(オプション) BIOS ブートモードを設定します。	18 ページの「BIOS ブートモードの設定」

インストール環境の準備

使用するインストール方法に一致する手順を選択します。

- 15 ページの「ローカルコンソールのセットアップ」
- 16 ページの「リモートコンソールのセットアップ (PXE インストール)」

▼ ローカルコンソールのセットアップ

1. **Sun Server X4-8 および Oracle VM ソフトウェアのプロダクトノートを確認します。**

   - Sun Server X4-8 のドキュメントは次で入手できます。
     http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs
   - Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます。
     http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html

2. **https://edelivery.oracle.com/oraclevm から Oracle VM ソフトウェアをダウンロードします。**

3. **ダウンロードした `.iso` イメージを使用して、CD/DVD を作成します。**

4. **次をサーバーに接続します。**

   - USB DVD-ROM ドライブ (サーバーに組み込まれていない場合)
   - USB キーボードとマウス
   - モニター

注記 - ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、Oracle VM Server の各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

次の手順

- 17 ページの「仮想ディスクの作成」
- 18 ページの「BIOS ブートモードの設定」

▼ リモートコンソールのセットアップ (PXE インストール)

この手順では、*ローカルサーバー*とは Oracle VM Server または Oracle VM Manager がインストールされるサーバー、*リモートコンソール*とは Oracle ILOM Remote Console 機能を介してローカルサーバーに接続されているリモートクライアント、*PXE サーバー*とはローカルサーバーにインストールする PXE イメージがインストールされるサーバーを指します。

1. **Sun Server X4-8 と Oracle VM ソフトウェアのリリースノートを確認します。**

   - Sun Server X4-8 のドキュメントは次で入手できます。

     http://www.oracle.com/goto/X4-8/docs
   - Oracle VM ソフトウェアのドキュメントは次で入手できます。

     http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html

2. **http://www.oracle.com/virtualization から Oracle VM ソフトウェアをダウンロードします。**

3. **リモートコンソールを使用する場合は、次のデバイスをリモートクライアントに接続します。PXE サーバーを使用する場合は、次をローカルサーバーに接続します。**

   - DVD-ROM ドライブ (メディアからインストールする場合)

- USB キーボードとマウス
- モニター

注記 - ネットワークに接続されたサーバーのオペレーティングシステムを構成する際には、Oracle VM Server の各ネットワークインタフェースの論理名 (OS によって割り当てられる) および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

---

4. **リモートコンソールを使用する場合は、『Sun Server X4-8 設置ガイド 』の「リモート Ethernet 接続を使用した Oracle ILOM へのログイン」の指示に従って Oracle ILOM リモートコンソールセッションを起動します。**

次の手順

- 17 ページの「仮想ディスクの作成」
- 18 ページの「BIOS ブートモードの設定」

仮想ディスクの作成

注記 - Sun Storage 6 Gb SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) を使用する場合は、これを実行する必要はあり*ません*。

Sun Storage 6 Gb SAS PCIe **RAID** 内蔵 HBA (SGX-SAS6-**R**-INT-Z) を使用する場合は、Oracle VM ソフトウェアをインストールする前に仮想ディスクを作成する必要があります。『Sun Server X4-8 設置ガイド 』の「OS インストールのためのストレージドライブの構成」を参照してください。

次の手順

- 17 ページの「BIOS の最適なデフォルト設定のロード」
- 18 ページの「BIOS ブートモードの設定」

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード

注意 - この手順では、BIOS の設定をデフォルト値にリセットし、以前にカスタマイズした設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値をロードする前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

始める前に

- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。

1. **サーバーの電源を入れます。**

   コンソールに POST メッセージが表示されます。

2. **メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**

   BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。

3. **最適なデフォルト値が設定されるようにするには、F9 を押します。**

4. **変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 を押します。**

次の手順 18 ページの「BIOS ブートモードの設定」

▼ BIOS ブートモードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシーと UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方の BIOS ブートモードをサポートしていますが、**デフォルト**設定はレガシーブートモードです。Oracle VM は、現時点では、レガシーブートモードのみをサポートしています。

BIOS ブートモードをデフォルトから変更して**いない**場合は、この手順をスキップできます。

BIOS モードが UEFI モードに設定されている場合は、次の手順を実行してレガシーモードに設定します。

1. **サーバーの電源を入れます。**

   コンソールに POST メッセージが表示されます。

2. **メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。**

   BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。

3. **BIOS 設定ユーティリティーで、左右の矢印キーを使用して「Boot」画面に移動します。**

「Boot」メニュー画面が表示されます。

4. **下矢印キーを使用して、「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択します。**
5. **Enter キーを押し、上下の矢印キーを使用して「Legacy BIOS」オプションを選択します。**
6. **変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、F10 を押します。**

次の手順 ■ 「Oracle VM Server のインストール 」

Oracle VM Server のインストール

手順	説明	リンク
1	Oracle System Assistant を使用して Oracle VM Server をインストールします。	21 ページの「Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant) 」
2	ローカルまたはリモートのインストール方法を使用して手動で Oracle VM Server をインストールします。	25 ページの「Oracle VM Server のインストール (手動)」
3	大容量メモリーのための調整 (オプション)、Oracle Hardware Management Pack のインストール、ドライバの更新、および Oracle VM リソースの作成または管理を行い、インストールを完了させます。	29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

▼ Oracle VM Server をインストールする (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS インストールタスクは、サポートされているバージョンの Oracle VM Server の補助付き OS インストールを提供します。

注記 - スクリーンショットは例示にすぎないため、実際の画面は若干異なる場合があります。

始める前に

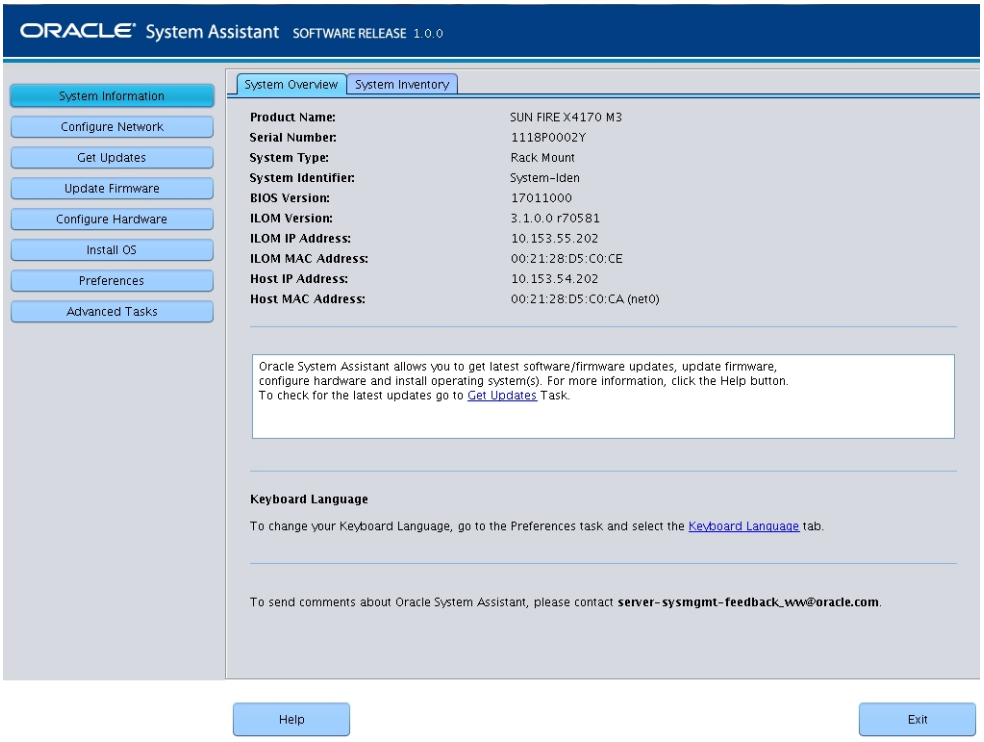
- 「Oracle VM Server のインストールの準備」の手順を実行します。
- Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。Oracle System Assistant をはじめて使用する場合は、ネットワークアクセスを設定する必要があります。『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs) を参照してください。
- **ローカル**インストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。

- **リモート**インストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「CD-ROM」を選択していることを確認してください。
- **.ISO イメージ**を使用する場合は、リモートコンソールシステムからアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールの「Devices」メニューから、「**CD-ROM Image**」を選択していることを確認してください。

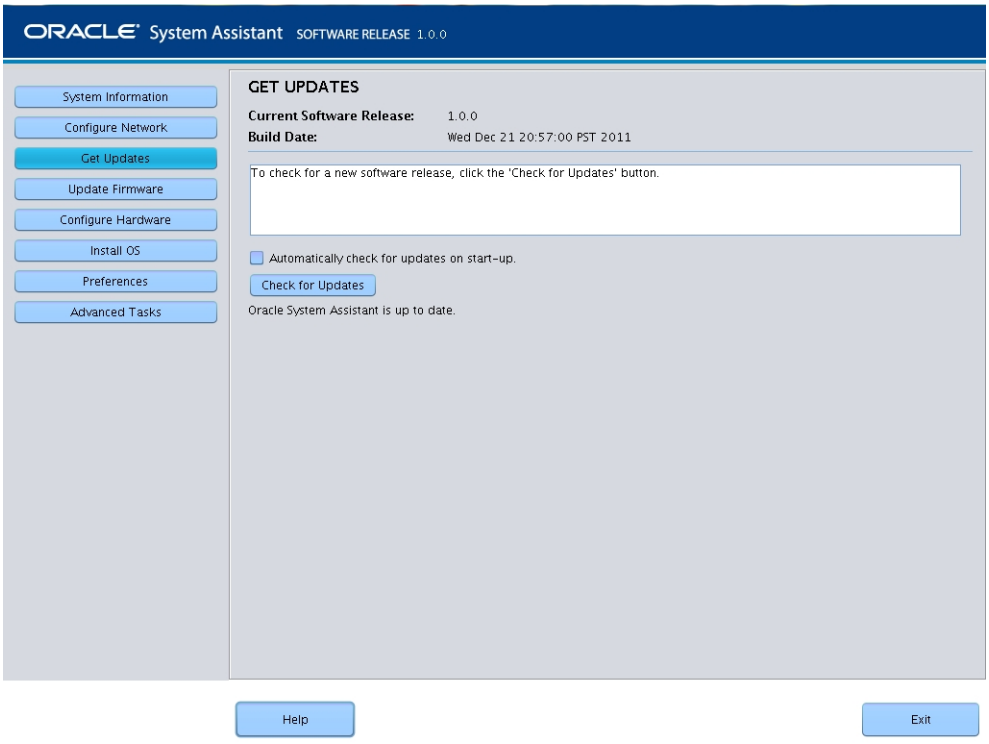
1. **サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。**
2. **サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面を注視して、F9 キーを押すよう求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。**
3. **プロンプトが表示されたら F9 キーを押します。**

   Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。

注記 - 特に、サーバーにリモートでアクセスしている場合、Oracle System Assistant がブートするのにしばらく時間がかかることがあります。



4. **最新のソフトウェアパックがあることを確認するには、「Get Updates」ボタンをクリックします。**



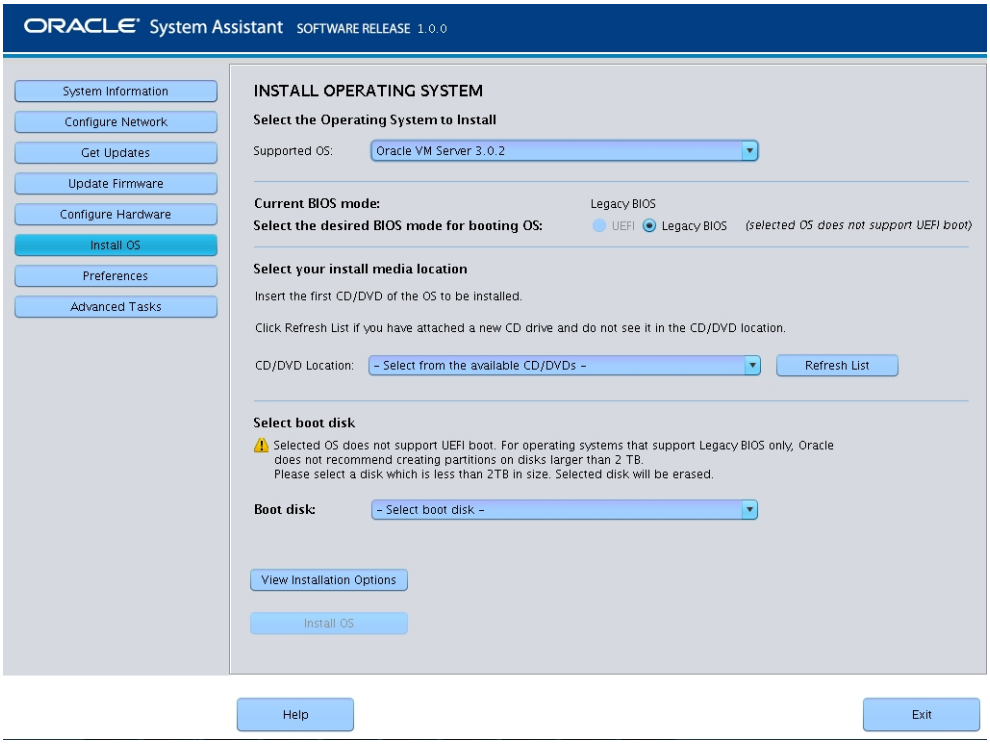
5. **「Check for Updates」ボタンをクリックして、使用可能なファームウェアおよびソフトウェアの更新が存在するかどうかを確認します。**

   最新のソフトウェアアップデートがシステムに適用済みの場合は、Oracle System Assistant が最新であることを知らせるメッセージが表示されます。

6. **更新がある場合は、「Update Firmware」をクリックします。**

7. **OS をインストールするには、左側のナビゲーションパネルにある「Install OS」ボタンをクリックします。**

   「Install OS」画面が表示されます。



8. **「Supported OS」ドロップダウンリストから、Oracle VM Server の適切なバージョンを選択します。**

9. **「Select the media location」セクションで OS インストールメディアの場所を指定します。**

   インストールにリモートコンソールを使用する場合は、「Devices」ドロップダウンメニューでリモートメディアの場所を選択します。

10. **「Select boot disk」セクションで、「Boot disk」リストからブートデバイスを選択します。**

    これは、OS をインストールするデバイスです。

注意 - データの損失。OS のインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

11. **画面下部の「Install OS」ボタンをクリックします。**

12. **プロンプトに従ってインストールを完了します。**

サーバーがブートします。

次の手順

- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
  http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM Server のインストール (手動)

Oracle VM Server のインストールに Oracle System Assistant を使用しない場合は、ソフトウェアを手動でインストールするための次のいずれかの手順を参照してください。

- 25 ページの「Oracle VM Server をインストールする (ローカルメディアまたはリモートメディア)」
- 27 ページの「Oracle VM Server のインストール (PXE Server)」

▼ Oracle VM Server をインストールする (ローカルメディアまたはリモートメディア)

始める前に 「Oracle VM Server のインストールの準備」の手順に従います。

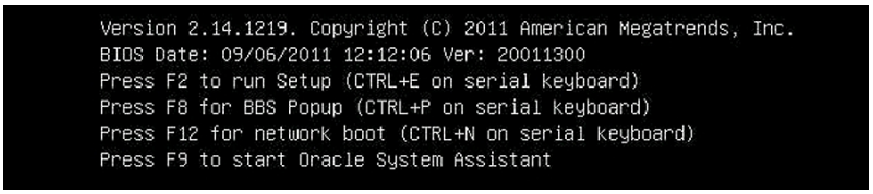
1. **Oracle VM Server 配布 CD/DVD を挿入するか (まだ挿入していない場合)、15 ページの「インストール環境の準備」で選択した方法に対応する `.iso` イメージ配布メディアにアクセスします。**

2. **サーバーの電源を入れるか、リセットします。次は、サーバーをリセットする方法のさまざまな例です。**

   - **Oracle ILOM Web インタフェースで、**「Host Management」>「Power Control」をクリックし、次に「Action」リストから「Reset」を選択します。
   - **Oracle ローカルサーバーで、**サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押してから離してサーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
   - **サーバー SP 上の Oracle ILOM CLI から、**「**`reset /System`**」と入力します。

注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



3. **F8 を押して、一時ブートデバイスを指定します。**

   しばらくすると、メニューでブートデバイスが選択できるようになります。

4. **リストからブートデバイスを選択します。**

   物理 CD/DVD から、または ISO イメージを使用している場合は仮想 CD/DVD からブートできます。

   制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。

5. **ブートプロンプトで、Enter を押します。**

6. **プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。**

   Oracle VM Server と Oracle VM Agent ソフトウェアがインストールされます。

   詳細については、次にある Oracle VM Server のインストールドキュメントを参照してください。

   http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm

7. **Oracle VM のインストールを完了させます。29 ページの「Oracle VM インストールの完了」を参照してください。**

次の手順

- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
  http://download.oracle.com/docs/cd/E20065_01/index.htm
- 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM Server のインストール (PXE Server)

このセクションでは、PXE ネットワーク環境から Oracle VM Server をインストールする方法について説明します。このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 27 ページの「PXE サーバーのインストール要件」
- 28 ページの「Oracle VM Server のインストール (PXE Server)」

PXE サーバーのインストール要件

この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- 接続された内蔵または外付 CD/DVD ドライブ内の Oracle VM 配布メディア
- Oracle VM `.ISO` イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

Oracle VM PXE インストールを実行するには、次の要件を満たしている必要があります。

注記 - KickStart は自動インストールツールです。システム管理者はこのツールを利用して、通常は一般的な Oracle VM のインストール中に入力される、インストールと構成のパラメータの一部またはすべての設定値を含めた、単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み込まれます。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作が必要です。
  - KickStart ファイルを作成します。
  - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作が必要です。
  - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
  - PXE のブートに必要なファイルを TFTP サーバー上に構成します。
  - PXE 構成からブートするように、サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを構成します。
  - DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成します。

- 大容量メモリーシステムの場合は、dom0_mem パラメータの設定が必要になることがあります。29 ページの「大容量メモリーシステムの dom0_mem の増加」を参照してください。

▼ Oracle VM Server のインストール (PXE Server)

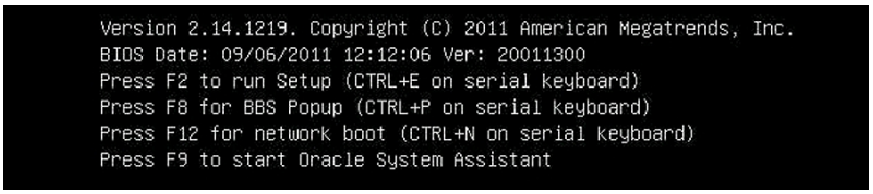
1. **PXE ネットワーク環境が正しく設定されており、Oracle VM のインストールメディアを PXE ブートで使用できることを確認します。**

2. **サーバーの電源を入れるか、リセットします。次は、サーバーをリセットする方法のさまざまな例です。**

   - **Oracle ILOM Web インタフェースで、**「Host Management」>「Power Control」をクリックし、次に「Action」リストから「Reset」を選択します。
   - **Oracle ローカルサーバーで、**サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを約 1 秒押してから離してサーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
   - **サーバー SP 上の Oracle ILOM CLI から、**「**`reset /System`**」と入力します。

注記 - 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

コンソールに BIOS メッセージが表示されます。



3. **F8 を押して、一時ブートデバイスを指定します。**

   「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能なブートデバイスが一覧表示されます。

4. **「Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように構成されたネットワークポートを選択します。**

ネットワークブートローダーが起動し、ブートプロンプトが表示されて、インストール元の PXE サーバーを選択できるようになります。数秒後、インストールカーネルのロードが開始されます。

5. **プロンプトに従ってソフトウェアをインストールします。**

   Oracle VM Server がインストールされます。

6. **Oracle VM のドライバを更新します。31 ページの「個々の Oracle VM ドライバをインストールする」を参照してください。**

次の手順

- 必要に応じて、Oracle VM Manager をインストールします。参照先:
  http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html
- 29 ページの「Oracle VM インストールの完了」

Oracle VM インストールの完了

次の各トピックでは、Oracle VM ソフトウェアのインストールを完了させる方法について説明します。

タスク	リンク
大容量メモリーシステムの dom0_mem の増加	29 ページの「大容量メモリーシステムの dom0_mem の増加」
サーバーシステムツールをインストールします。	30 ページの「Oracle Hardware Management Pack へのアクセス」
特定のドライバを手動で更新します。	31 ページの「個々の Oracle VM ドライバをインストールする」
Oracle VM リソースの作成と管理について学習します。	32 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

大容量メモリーシステムの dom0_mem の増加

OVM を `.iso` イメージから、または Oracle System Assistant を使用してインストールする場合は、`dom0_mem` を正しく設定する必要があります。OVM ソフトウェアを PXE ブートまたはその他のカスタマイズされた環境からインストールし、大容量メモリーシステムがある場合は、`dom0_mem` の設定が必要になることがあります。

この式を使用します。

```
dom0_mem = 502 + int(physical_mem_MB * 0.0205)
```

たとえば、システムに 131072M バイト (128G バイト) のメモリーがある場合は、dom0_mem を 3188M バイトに増やす必要があります。

メモリーを増やすには、テキスト `dom0_mem=3188m` を `grub.conf` のカーネル行に追加します。初回ブート時は、「GRUB」メニューでブートプロセスを中断して `grub.conf` ファイルを編集することができます。

▼ Oracle Hardware Management Pack へのアクセス

Oracle System Assistant USB デバイス上でまたは Oracle サポートサイトから、Oracle Hardware Management Pack などのサーバーシステムツール (追加ソフトウェア) にアクセスするには、次の手順を使用します。

始める前に Oracle System Assistant がシステム上にインストールされている場合は、Oracle System Assistant の「Get Updates」タスクを実行して最新のツールが使用可能になっていることを確認します。

1. **次のいずれかを実行します。**

   - **システムに Oracle System Assistant がインストールされている場合は、オペレーティングシステムから Oracle System Assistant の USB デバイスに移動します。**

     USB デバイスの名前は `ORACLE_SSM` です。

   - **システムに Oracle System Assistant がインストールされていない場合:**

     a. **システムの最新のツールおよびドライバを My Oracle Support サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。**

        システムツールとドライバにアクセスする方法については、『Sun Server X4-8 設置ガイド 』の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

     b. **パッケージを解凍してファイルを展開します。**

2. **次のディレクトリに移動します。**

   `OracleVM/`*version*`/Tools/hmp-tools`

ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。

3. **Hardware Management Pack をインストールするには、次にある Oracle Hardware Management Pack のドキュメントを参照してください。**

   http://www.oracle.com/goto/ohmp/docs

次の手順 32 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

▼ 個々の Oracle VM ドライバをインストールする

1. **次のいずれかを実行します。**

   - **システムに Oracle System Assistant がインストールされている場合は、サーバーオペレーティングシステムから Oracle System Assistant の USB デバイスに移動します。**

     USB デバイスの名前は `ORACLE_SSM` です。

   - **システムに Oracle System Assistant がインストールされていない場合:**

     a. **システムの最新のツールおよびドライバを My Oracle Support サイトからサーバーにダウンロードまたはコピーします。**

        システムツールとドライバにアクセスする方法については、『Sun Server X4-8 設置ガイド 』の「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

     b. **パッケージを解凍してファイルを展開します。**

2. **OVM Install Pack ディレクトリに移動します。**

   `OracleVM/`*version*`/Drivers`

   ここで、*version* は、インストールされている Oracle VM のバージョンです。

3. **インストールするドライバに対応するディレクトリにアクセスします。**

   各ディレクトリにはドライバのインストール手順が記載された ReadMe ファイルが含まれています。

4. **ドライバをインストールします。**

5. **サーバーをリブートします。**

次の手順 32 ページの「Oracle VM リソースの作成と管理」

Oracle VM リソースの作成と管理

Oracle VM Server (と Oracle VM Agent) および Oracle VM Manager をインストールしたら、次を実行できます。

- 共有ストレージリポジトリを作成します。耐障害性のために、このストレージを使用している複数の仮想マシンをクラスタ構成で設定できます。共有ストレージのオプションには次が含まれます。
  - iSCSI (インターネット SCSI) ネットワークプロトコルを使用する OCFS2 (Oracle Cluster File System)
  - SAN (Storage Area Network) を使用する OCFS2
  - NFS (ネットワークファイルシステム)
  - マルチパスフェイルオーバーを備えたパーティション
- 仮想マシンのサーバープールを作成します。
- そのサーバープールに仮想マシンを作成します。

関連項目

- Oracle VM のインストールドキュメントについては、次を参照してください。

  http://www.oracle.com/technetwork/documentation/vm-096300.html
- 「Oracle VM Server のインストール 」

索引

数字・記号

BIOS
  最適なデフォルトのロード
    Oracle VM, 17
  ブートモード
    設定 (Oracle VM), 18
BIOS のデフォルト
  Oracle VM, 17
dom0_mem パラメータ (Oracle VM), 29
grub.conf ファイル (Oracle VM), 29
Hardware Management Pack *参照* Oracle Hardware Management Pack
KickStart 自動インストールツール, 27
Oracle Hardware Management Pack
  Oracle VM, 30
Oracle ILOM
  リモートコンソール
    Oracle VM , 16
Oracle System Assistant
  OS インストール
    Oracle VM, 21
  概要
    Oracle VM, 12
Oracle VM
  PXE サーバーを使用したインストール, 27
  インストール
    BIOS のデフォルトのロード, 17
    BIOS ブートモードの設定, 18
    Oracle System Assistant, 13
    Oracle VM Server, 21
    Oracle Hardware Management Pack へのアクセス, 30
    インストール済み, 10
    オプション, 11
    概要, 10
    仮想ディスクの作成, 17
    準備, 15
    大容量メモリーシステム, 29
    タスク表, 9
    ドライバ, 31, 32
    メディア, 25
    リモートまたは PXE, 16
    ローカルインストール, 15
  サポートされるバージョン, 10
  ソフトウェアのバージョンおよび更新, 10
  ドキュメント, 15, 16
  メディアのダウンロード, 15
  リソースの作成と管理, 32
OS の手動インストール
  Oracle VM, 25
Preboot Execution Environment (PXE)
  Oracle VM のインストール, 27
  セットアップ (Oracle VM), 16
PXE ブートと大容量メモリーシステム (Oracle VM), 29
Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) *参照* BIOS

あ

インストール
  Oracle Hardware Management Pack
    Oracle VM, 30
  OS
    Oracle VM について, 9
  リモートセットアップ
    Oracle VM , 16
  ローカルセットアップ
    Oracle VM, 15
オペレーティングシステム
  サポートされるバージョン
    Oracle VM, 10, 10
  ドライバの更新 (Oracle VM), 31

か

仮想ディスク, 17
コンソール
  リモート (Oracle VM), 16
  ローカル (Oracle VM), 15

さ

サポートされるオペレーティングシステム
    Oracle VM, 10

た

大容量メモリーシステム (Oracle VM), 29
ダウンロード
    Oracle VM, 15
ツールとドライバ
    Oracle VM, 29, 31
ドライバ
    個別 Oracle VM インストール, 31

は

ブートディスク, 設定と内蔵 HBA
    Oracle VM, 17
補助付き OS インストール
    Oracle VM, 21

ら

リモートインストール
    セットアップ (Oracle VM), 16
レガシー BIOS ブートモード
    Oracle VM, 18
ローカルインストール
    セットアップ (Oracle VM), 15